

那須烏山

— No.84 —

2012
September

9

Public Relations Magazine
of Nasukarasuyama City

第35回いかんべ祭	2
学校給食センターオープン	6
子ども議会	8
風っこ烏山号	10
森田の獅子舞・下境ささら獅子舞	11
まちの話題	18
インフォメーション	20



復興を祈念し盛大にいかんべ祭

「天空の光・伝統の響き・創造の力」をテーマに

第35回

いかんべ祭



復興祈願の花火と大壁画。

大壁画・花火に復興の願いを込めて

市民ボランティアによる「第35回い
かんべ祭」を8月17日と18日、保健福祉
センター駐車場で開催し、2万6千人
が夏の祭典を楽しみました。昨年は、東
日本大震災の影響で中止したため、祭
は2年ぶりの開催となります。

実行委員会（山本芳江実行委員長）では、
今年の祭を復興祈念と位置づけ、5年
ぶりに大壁画を制作。テーマは「百花
繚乱」で、色鮮やかな花々や鶴が羽ば
たく姿を描いたものです。ボランティア
アが、6月から連日深夜までの作業で
描きあげた作品が、ステージ両脇に飾
られ、会場に華を添えました。

本祭の夜は、激しい雨のため花火を

延期しましたが、翌日には、企業や市民

の記念花火と共に、一日も早い復興へ
の思いが込められたスターマインをは
じめ、花火1千発が、夜空を彩りました。

今年も、本祭を午後からとし、ステー
ジも夕方から開催したのも新たな取り
組みです。これは、祭りの経費を抑える
ためのものです。

広さ100畳、県下一を誇る野外ス
テージでは、市内外の文化団体が、歌や
踊りを披露しました。17日の前夜祭は、
鳥山ふるさと太鼓の演奏で幕開け。30
ほどの団体がカクテル光線を浴びなが
ら、次々と公演しました。オープニング
で山本委員長は、「祭を復活できたのは

自治会、商店、企業などの協力のおかげ。
夏の思い出に祭を楽しんでほしい」と
述べました。

翌日の本祭は、いかんべパレードで
スタート。つくし幼稚園を出発した参
加者は、沿道から多くの声援を受けな
がら祭会場を目指しました。ステージ
では降雨のため度々中断され、実行委
員は、その都度ステージ上の排水作業
等に追われました。しかし、午後7時30
分頃からは、激しい雷雨が続き、残念な
がら多くの夜の公演を残し、中止の判
断をしました。

【写真】①BEAT CRASH(大金ジュニア)
②鳥山小プラスバンド部③弥勒連④フラダンス
フラレア(オールメンバー)⑤EVA HULA
⑥飛晴⑦特命戦隊ゴースターズショー⑧嵐山
陸⑨BEAT CRASH(大金JAZZ)





いかんべパレード

中学校吹奏楽部を先頭に、いかんべ七福神、子ども会育成会、おはやし会などが、つくし幼稚園から会場までパレードしました。プラカード持手は荒川中の女子生徒。市役所南那須庁舎前では、多くの観客が声援を送りました。【写真】①子どもみこしも参加②七福神がお菓子をプレゼント③ダンスを披露する「ビートクラッシュ」。



いかんべ七福神の皆さん。



観客を囲む出演者。



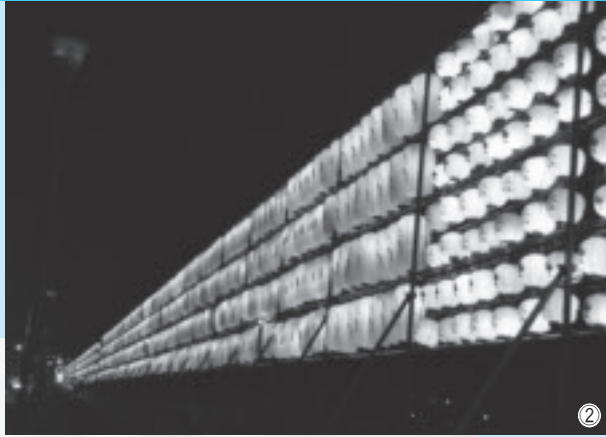
突然の雨で花火が延期

本祭は雨で何度も中断。ステージは途中で中止し、花火大会は延期となりました。翌日には、企業や市民から提供された記念花火や、復興への願いを込めたスターメインなどが、夜空を彩りました。【写真】①激しい雨で本部に避難する人々②翌日打ち上げられた花火。

露天や模擬店も子どもたちに大人気

広場には露天や模擬店が出店され、子どもたちも祭を楽しみました。【写真】①金魚すくいを楽しむ②射的も大人気。





②



①

新作の大壁画・ 幻想的な会場

「いかんべ祭」といえば県下の野外ステージ。その両側には、新作の「百花繚乱」をテーマとした大壁画が飾られました。また、会場には1800の提灯が飾られ、幻想的な雰囲気をかもし出していました。

【写真】①高さ約10メートルの巨大壁画②会場に飾られた提灯。

ボランティア スタッフの活躍

祭は多くのボランティアで支えられています。もちろん、実行委員も市民ボランティア。当日は会場内の美化活動をする「クリーンボーイ&ガール」の小・中学生やリーダーズクラブ、救護を担当する「女性消防団めでいかるサポート部」なども協力。雨が降ると、観客を誘導し、熱中症を防ぐため、終始うちわを仰ぐなどしていました。
【写真】①今年の司会を務めた3人②クリーンボーイ&ガールも椅子拭きに協力③雨の後はステージ上の排水作業④来場者の健康チェックをする女性消防団⑤前夜祭終了後の清掃作業。



①



④



②



③

ボランティアが支える い かん べ 祭



⑤

学校給食センターが新築オープン

市は、大震災で被災した南那須須学校給食センターなど3施設を集約し、荒川中学校隣接地に整備を進めていた学校給食センターがいよいよ完成し、8月31日には開所式が行われました。同センターは、衛生面に配慮したほか、食物アレルギーの児童・生徒のために、アレルギー調理室も備えました。敷地面積4251・71㎡、延べ床面積1961・71㎡、鉄骨造2階建てで、今年2月に着工し、8月24日に完成しました。2学期から、新施設で市内全小・中学校へ



の給食提供を始めました。調理及び配送は、給食の安全性や効率化などを考え、(株)東洋食品に業務を委託しています。当日は、大谷範雄市長が、「子どもたちが『おいしい』と笑顔で食べられる、安全で安心な給食を提供していきたい」とあいさつ。テープカットに続き、式出席者や、市内全校での試食会も行いました。



(写真上から)新施設の外観/式典出席者が施設見学/子どもたちも給食を試食(荒川小)。



市内に新施設

梨・トマト選果施設が完成

那須南農業協同組合(山田清代表理事組合長)では、老朽化や大震災で被災し、新たに建設を進めていた梨・トマト選果施設の完成を祝い、8月17日、竣工式・落成祝賀式を開きました。

同組合では、小倉の梨選果場と中山の梨・トマト選果場を集約し、熊田の下江川支店南側に新施設を建設。事業費は約3億5千万円で、国の補助金1億6千万円と、市の補助金1600万円を受けて整備したものです。施設の延床面積は1950・66㎡、梨は8〜11月、トマトが2〜7月に稼動する計画です。

当日は、同組合や工事関係者、来賓など150人が出席し、テープカットが行われ、山田組合長は、「この施設が地域農業の発展に寄与することを願う」とあいさつしました。



JA選果場の完成を祝い関係者がテープカット。

JA

防災情報メール

9月1日から新システムに更新

市は、事前に登録した携帯電話やパソコンに、火災や空間放射線量等の情報をメール配信する「防災情報メール（エマージェンシースタート）」のシステムを、9月1日に更新しました。

メール配信元のアドレス変更に伴い、9月1日以降、従来のままでは、受信できない場合があります。利用する皆さんは、次の手順で新規登録をお願いします。

①迷惑メール対策の設定

迷惑メール対策をしている場合には、次のドメイン「@以降のアドレス」から受信ができるように設定してください。

- ・NTTドコモの携帯電話（iモードメール・SPモードメール）利用者
- ・mail-i-emergecast.jp
- ・それ以外の利用者

mail.emergecast.jp



ぜひご利用を!!

②新規登録

次のQRコード（i-nskrsym@mail.emergecast.jp）を利用し、新規登録をしてください。

登録用



防災情報メールでは、次の2つの区分で、情報を配信しています。

『火災防災情報』：火災や防災に関する情報。

『行政情報』：空間放射線量測定結果、交通安全などの情報。

受信情報を変更する場合は、新規登録が必要となります。

市は、この防災情報メールのほか、市ホームページ、とちぎテレビデータ放送、メールマガジン、ツイッター、防災行政無線等で防災情報をお届けしています。災害発生の恐れがある時などは、ぜひ、これらの情報をご活用ください。

■総務課危機管理室 ☎0287-1111



開所式で提供された給食。(8/31)

ご寄付

ありがとうございます

■ふるさと応援寄付金

復興支援・住宅エコポイント事業で「復興寄付」を希望した方々から4万1千円が本市に寄付されました。市ではふるさと応援寄付金として、復興支援に活用させていただきます。

■社会福祉事業寄付金

東北化工(株)様から3万9千円が寄付されました。地域福祉基金に積立てし、活用させていただきます。

■市の工事請負等契約

(前月20日までの入札結果、単位は千円、130万円以上)

事業名	箇所	業者名	金額	工期
滝愛宕台線設計業務委託(道路整備費)その31	滝	㈱都市開発コンサルタント	2,541	7/26～9/28
滝田霧ヶ沢線道路災害復旧工事(市単災害)その1	滝田	小林建設(株)	2,076	7/25～10/22
七合保育園改修工事	大桶	(有)國井建設	2,100	7/28～9/28
污水処理施設修繕工事	東原、野上、興野	水 i n g(株)	17,010	8/16～2/15
学校給食センター給食調理及び配送業務委託	大金	(株)東洋食品	275,625	8/1～29/7/31

入札等に関するお問い合わせは、総務課管財係 ☎0287-83-1111 まで。

小中学生が議会を体験

子どもも議会

市は、未来を担う小中学生に「議会」を体験してもらい、まちづくりへの関心を高めてもらおうと、「第4回子ども議会」を8月8日、市役所議場で開催しました。

当日は、各校代表の小中学生7人、中学生5人のほか、市執行部から大谷範雄市長や池澤進教育長、各課の課長など



実際の議場で議会を体験。

が出席。議長は中学生3人が交代で務め、多くの傍聴者が見守る中、12人の参加者は、緊張した様子で真剣に質問すると、大谷市長がその質問に丁寧に答えました。

なお、参加者と質問事項は、次のとおりです。(敬称略、順不同)

- 小学生(6年生)
- ①近藤毅(鳥山小)
- ②大森蒼生(七合小)
- ③大森蒼生(七合小)
- ④堀江紗矢(江川小)
- ⑤堤悠人(荒川小)
- ⑥小田戸海斐(境小)
- ⑦鈴木葉月(鳥山小)
- ⑧那須烏山市の歴史を学ぶための工夫について
- ⑨放課後や休日を利用できる子どものための施設について
- ⑩中学生(3年生)
- ⑪小口敦(下江川中)(議長)
- ⑫歩道、道路について
- ⑬郡司佳典(荒川中)(議長)
- ⑭那須烏山市の観光PRについて
- ⑮田島舞子(鳥山中)
- ⑯図書室の本の購入予算について
- ⑰金澤実咲(荒川中)
- ⑱医療・福祉の充実について
- ⑳大森章史(鳥山中)(議長)
- ㉑外灯設置について



答弁を聞く小学生。



堂々と質問する中学生。



資料を手にする仲山君。

仲山晴貴君(荒川小) 子ども国会議員に

子どもたちに国会の役割や社会問題を認識してもらおうと「子ども国会」が7月29日と30日、国会議事堂で開かれ、荒川小6年の仲山晴貴君が議員として参加しました。

テーマは「東日本大震災からの復興と私たちの未来」。全国から参加した小学5・6年生150人は、6つの委員会に分かれ意見を交わし、「子ども国会宣言」をまとめました。仲山君は、「国会への関心が高まった。発言はとても緊張した」と話していました。



大谷市長を囲んで参加者の皆さん。

女性消防団「メディアカルサポート部」

市内イベントで本格活動開始

平成22年4月に発足した市女性消防団が、今年4月から、消火活動等を中心とする女性第1部と、啓発活動等を中心とする女性第2部の2部制となりました。啓発や広報活動、救護等を担う第2部「メディアカルサポート部」(横山孝子部長・団員9人)では、8月の市内イベントから、本格的な活動を開始しています。

フが目印です。20代から40代の看護師や学校支援員、介護調査員など、年齢も職業も様々ですが、和気あいあいとした雰囲気です。活動しています。

高峰地区で8月25日に開かれた納涼祭では、同部が、初めての啓発活動として「救急講座」を開催。当日出席した7人の女性団員は、同地区の子どもや保護者に、鼻血や骨折、やけどの応急処置の仕方などを分かりやすく説明しました。

また、横枕青年団の花火大会といかんべ祭では、救護を担当。けが人や病人への対応、血圧測定による来場者の健康チェックなどの活動もしています。

横山部長は、「地域に向き、積極的に啓発活動を行っていき、そのためにも団員を増やし、無理のない活動を心掛けたい。応急処置などの知識は、子育て中の母親にも役立つので、ぜひ入団してほしい」と話していました。



高峰納涼祭で啓発活動。



横枕花火大会で健康チェック。



いかんべ祭で活動をPR。

古民家で昔の暮らしを体験

地域版プラットフォーム事業

子どもたちが古民家に宿泊し、昔の暮らしを体験する「みんな大好き夏のわくわく塾」の暮らしにタイムスリップを、8月3日から2泊3日で、地域版プラットフォーム事業を市から委託されたNPO法人「野うさぎくらぶ」(矢口和美代表)が開催しました。

「プラットフォーム」とは、NPO法人・ボランティア団体・企業など様々な人たちと行政が協力して、地域の課題解決に取り組むものです。本市では、この事業で、地域力をいかに子育て支援に取り組んでいます。

今回は、市内小学生10人が、かやぶき古民家「大木邸」に宿泊し、「生きる力を育む体験」として、収穫した野菜での食事作りやオリエンテーリング、和紙のキーホルダー作り、五右衛門風呂体験、星の観察や昆虫採集等、自然や昔の暮らしを体験しました。

野うさぎくらぶでは、今後も、子どもや保護者の居場所づくりなどのイベントを開催していきます。



上：解説を聞きながらオリエンテーリング／下：昆虫採集のためエサを準備。



さわやかな風を感じる車内。

風つこ鳥山号

トロッコ風気動車が
やって来た

窓ガラスがなく、自然の風を受けながら乗車できるトロッコ風気動車「風つこ鳥山号」をJR大宮支社が、8月25日と26日の2日間、宇都宮・鳥山駅間で運行しました。両日とも上・下線各3便運行し、全席指定で約800人が乗車しました。市は、下り線の車内で、観光パンフレットを配るなど、市の魅力をPR。鳥山駅前では、観光関係者の出店やお囃子演奏などで、観光客を



乗客が小堀康郎鳥山駅長と記念撮影。



龍門の滝と風つこ鳥山号。

迎えました。

同社では、この列車で訪れた観光客のために、タクシーで観光名所を巡る「駅から観タクン」(有料)を、市内で初企画。一つは龍門の滝、太平洋寺、どうくつ酒蔵、愛宕山散策のコース。もう一つは和紙の里、境橋、和紙会館、鳥崎酒造、山あげ会館を見学するコースで、今後の利活用が期待されています。

豊島区と相互に交流

「いなか川遊び」と「一日豊島区民の旅」

「非常災害時相互応援協定」を結ぶ豊島区と市が、夏休み期間に相互に交流事業を行い、いなかでの自然体験や、都市体験を通して、市民同士の交流を深めました。

豊島区では、8月5日から1泊2日で、本市の自然を体験する「第7回自然に触れよう！いなか川遊び」を開き、区民50人が来市。参加者は、まず、小堀鉄橋下流で水生昆虫探しや魚釣り、とうもろこし畑でのもぎ取りを楽しみました。翌日は、早朝から公園でクワガタや

カブトムシ取り、コーナー体験などをし、自然を満喫しました。

22日には、高層ビルや地下鉄など、都会でしか味わえない雰囲気を感じてもらおうと、市が「一日豊島区民の旅」を開き、市民32人が同区を訪問。参加者は、巣鴨地蔵通り商店街やサンシャインシティ60での買い物や水族館見学、地下鉄乗車、防災館での災害体験などを通して、いなかと都会の文化の違いを実感してきました。

夏休みの楽しい思い出...

上:本市で川遊びを楽しむ豊島区民。
下:サンシャインに集合する本市民民。



鳥山中郷土芸能部 全国中文祭で公演



全国の舞台で鳥山中郷土芸能部の発表。

中学生の文化活動の祭典「全国中学校総合文化祭栃木大会」(全国中学校文化連盟主催)が、8月17日と18日、宇都宮市文化会館で開かれ、鳥山中学校の郷土芸能部がおはやしを披露しました。

大会には、全国から37校、県内から9校の中学生が参加し、文化・芸術を発表。同部は、18日に出場し、大会の「トリ」を務めました。

当日は、選抜された11人の部員が、「四丁目」「新囃子」など5曲を演奏し、練習の成果を披露。創部30年を迎える同部では、下境小宅流囃子方保存会の指導のもと、夏休みも練習に励み本番に臨みました。大森章史部長は、「メンバー11人の心を合わせ、いい演奏ができた」と、振り返りました。

シリーズ 市の文化財 第17回

市指定文化財

みやばらはちまんぐうだいだいかぐら
宮原八幡宮太々神楽(宮原)



今年の山あげ祭でも公演

明治17年(1884)、当時の宮原八幡宮司が伊勢神宮の役職「権禰宜」を退官された際、地元で神楽の口伝えや用具を伝えたのが始まりとされています。

舞は全部で39場ありますが、全て舞うと2日間かかるとされ、奉納では、翁舞、八岐大蛇舞、岩戸舞など代表的な8場を演じています。

後継者不足のために実施されない時期もありましたが、現在では保存会が組織され、地元の奉納以外にも、市内外の各種行事に出演するなど活発に活動しています。

直近では、9月16日(日)、午前10時30分から「ひのきや」にて上演される予定です。一度ご覧になってはいかがでしょうか。(無料、申込不要)

■生涯学習課 ☎0287-88-6223

五穀豊穡願い

森田の獅子舞 下境ささら獅子舞

市内では、五穀豊穡を願う伝統芸能が各地で開かれました。8月25日には森田、26日には下境で、それぞれ市指定無形民俗文化財の「獅子舞」が行われました。

1600年、森田郷を領した大田原増清が、民生の安定と五穀豊穡を願い始めたこととされる森田の弁財天祭礼。森田宿集会センターに建てられた御仮殿の前で、笛の音に合わせて三頭の獅子(雄2頭、雌1頭)が、優雅に舞うものでした。途中には、「おかめ」「ひよっこ」等が登場し、見学者の笑いを誘っていました。

下境の稲積神社で行われたのは、250年の歴史があり風土安穩、五穀豊穡を祈願する「ささら獅子舞」。今年は小学4〜6年生の新獅子3人と、続いて古獅子(昨年の新獅子3人が、獅子舞を奉納。雄獅子と雌獅子、子獅子)が、笛の音に合わせて見事な舞を披露しました。



三頭の獅子が優雅に舞う(森田)。



神社境内で獅子舞を奉納(下境)。